

調査

2023年度の新入社員アンケートから

—「秋田県が好き・安心」と県内就職を希望—

当研究所では、毎春、県内企業の新入社員を対象に、就職活動や働き方に関するアンケート調査を実施している。今年度は、県内全6先の商工会議所にご協力いただき、同会議所が開催する新入社員講習会に参加した方々から回答を得ることができた。

調査結果から、回答者の多くは「秋田県が好き・安心」という思いから県内での就職を希望したことが分かった。また、親や家族など身近な相手に相談をしながら就職活動に臨み、就職先の決定では定年までの勤続や地域への貢献を視野に入れ将来性を重視する傾向がみられた。

1 アンケート結果

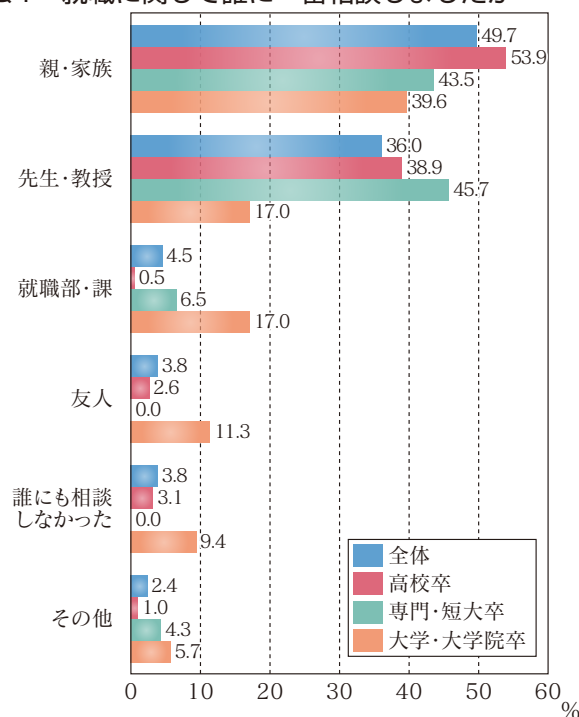
Q1 就職に関して誰に一番相談しましたか

一番相談した相手として、全体では、「親・家族」(49.7%)と「先生・教授」(36.0%)に回答が多く集まった。「親・家族」は、2015年度に実施した調査から8回連続(※)で最も高くなった。

最終学歴別に各項目をみると、「親・家族」の回答割合は、高校卒(53.9%)で最も高くなった。「先生・教授」は、専門・短大卒(45.7%)と高校卒(38.9%)で3割を超えた。大学・大学院卒では、「就職部・課」(17.0%)と「友人」(11.3%)が二桁となり、いずれも他学歴の2倍以上となった。

(※) 2020年度はコロナ禍の影響から調査を実施せず

Q1 就職に関して誰に一番相談しましたか



調査要領

- 調査目的 新入社員の就職に関する意識を把握する。
- 調査期間 2023年3月15日～4月13日
- 調査方法 新入社員講習会における無記名アンケート方式
- 回答者 292名

回答者の内訳

地域別	大館市	能代市	秋田市	大仙市	横手市	湯沢市	合計
人数(人)	37	56	87	39	41	32	292
構成比(%)	12.7	19.2	29.8	13.4	14.0	11.0	100.0

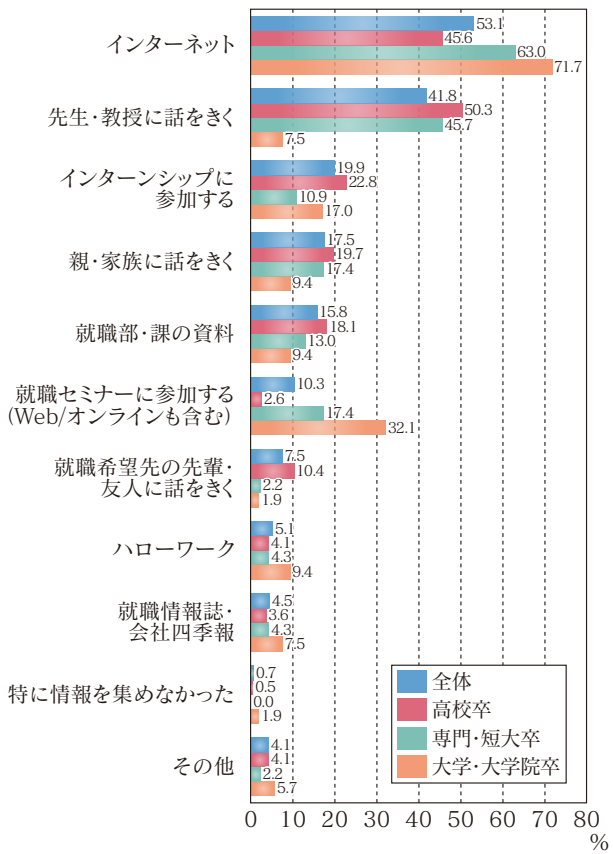
最終学歴別	高校卒	専門学校・短大卒	大学・大学院卒	合計
人数(人)	193	46	53	292
構成比(%)	66.1	15.8	18.2	100.0

Q2 効果的だった情報収集方法は何ですか (2項目複数回答)

全体では、「インターネット」(53.1%)が、本項目を設けた2002年度以降初めて5割を超え、最も高い割合となった。次いで、「先生・教授に話をきく」(41.8%)となった。

最終学歴別では、「インターネット」は、高校卒(45.6%)、専門・短大卒(63.0%)、大学・大学院卒(71.7%)と、最終学歴が上がるにつれて回答割合が上昇した。「就職セミナーに参加する(Web/オンラインも含む)」も同様に、大学・大学院卒(32.1%)が3割を超え、最も高くなった。対照的に、「先生・教授に話をきく」は、高校卒(50.3%)、専門・短大卒(45.7%)、大学・大学院卒(7.5%)と、学歴が上がるにつれて割合は低下した。同じ傾向は、「親・家族に話をきく」、「就職部・課の資料」、「就職希望先の先輩・友人に話をきく」でもみられた。

Q2 効果的だった情報収集方法は(2項目複数回答)



Q3 就職活動で利用した機関やイベント

全体では、県と秋田労働局などが主催する「秋田県合同就職説明会・面接会」(33.7%)の利用割合が最も高くなった。次いで、「人材ビジネス業大手主催の会社説明会・面接会」(18.6%)、「ハローワーク」(17.5%)、公益財団法人秋田県ふるさと定住機構が運営する「あきた就職活動支援センター」(8.6%)となった。

いずれかの機関・イベントを「Web/オンラインでのみ」利用した、または、「対面、Web/オンラインどちらも」利用したと回答した63名のうち、メリットを感じた割合は84.1%となった。

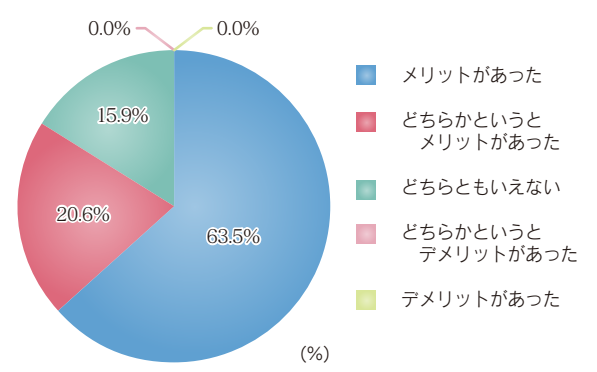
具体的なメリットの内容としては、回答割合が高い順から、「学業と就職活動を両立しやすかった」(50.9%)、「交通費や宿泊費を節約できた」(37.7%)となった。

Q3 就職に関する機関やイベントの利用割合

(単位：%)

秋田県合同就職説明会・面接会	33.7
人材ビジネス業大手主催の会社説明会・面接会	18.6
ハローワーク	17.5
あきた就職活動支援センター	8.6

Q3 Web/オンライン利用による影響



Q3 Web/オンライン利用による具体的なメリットは(2項目複数回答)

(単位：%)

学業と就職活動を両立しやすかった	50.9
交通費や宿泊費を節約できた	37.7
遠方にある企業にも応募しやすかった	22.6
1日に複数の企業と面接できた	15.1
面接の対策に取り組みやすかった	15.1

(注) いずれかの機関やイベントをWeb/オンラインにより利用した経験があり、且つ「メリットがあった」、「どちらかというメリットがあった」とした回答者53名

Q4 県外就職を希望したことがありますか

県外就職を希望したことがある割合は全体の44.8%となった。前回調査(46.8%)から2.0ポイント低下し、本設問を設けた1999年度以降最低となった2021年度調査(39.2%)と、2019年度調査(43.4%)に次いで、3番目に低い。

最終学歴別では、大学・大学院卒(66.0%)が6割を超え、専門・短大卒(41.3%)と高校卒(39.8%)を大きく上回った。

県外就職を希望したことのある回答者130名のうち、実際に県外で就職活動を行った割合は35.4%と、過去10回の調査では最も低くなった。

また、県外就職を希望した理由としては、「都会での生活を体験してみたかった」(45.0%)が最も高く、ほかに「地元や親元を離れて生活してみたかった」(24.8%)、「地元よりも条件のよい勤め先があった」(13.2%)も二桁台となった。

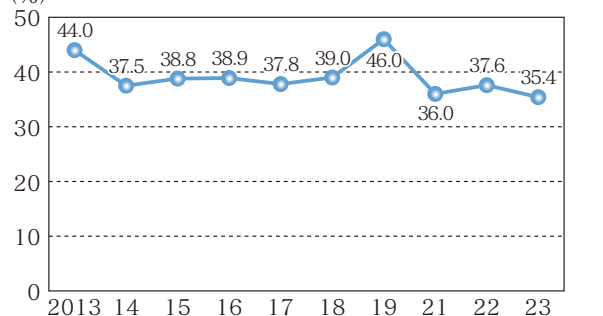
Q4 県外での就職を希望したことがありますか

(単位：%)

	ある	ない	覚えていない
全体	44.8	51.7	3.4
高校卒	39.8	56.5	3.7
専門・短大卒	41.3	54.3	4.3
大学・大学院卒	66.0	32.1	1.9

Q4 実際に県外で就職活動を行った割合

(%)



(注) 2020年度はコロナ禍の影響から調査を実施せず

Q4 県外での就職を希望した理由

(単位：%)

都会での生活を体験してみたかった	45.0
地元や親元を離れて生活してみたかった	24.8
地元よりも条件のよい勤め先があった	13.2
地元で希望職種の勤め先がなかった	8.5
その他	8.5

Q5 県内での就職を決めた理由は何ですか

(3項目複数回答)

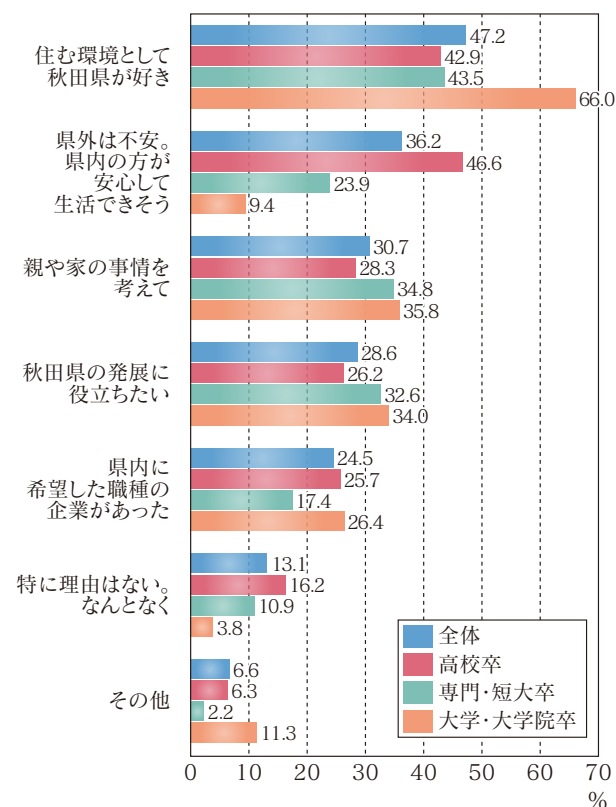
全体では、「住む環境として秋田県が好き」(47.2%)に最も多くの回答が集まった。次いで、「県外は不安。県内の方が安心して生活できそう」(36.2%)と、「親や家の事情を考えて」(30.7%)がともに3割台となった。

「住む環境として秋田県が好き」は、大学・大学院卒(66.0%)が、専門・短大卒(43.5%)と高校卒(42.9%)を20ポイント以上上回った。

アンケートを実施した地域別では、「住む環境として秋田県が好き」が能代市(53.6%)と横手市(51.2%)で過半数となった。「県外は不安。県内の方が安心して生活できそう」は、大仙市(51.3%)、湯沢市(48.4%)、横手市(41.5%)で4割を超えた。「親や家の事情を考えて」は、能代市(46.4%)と大館市(43.2%)で他の地域を上回った。

Q5 県内での就職を決めた理由は何ですか

(3項目複数回答)



Q6 就職先を選んだ理由は何ですか
(3項目複数回答)

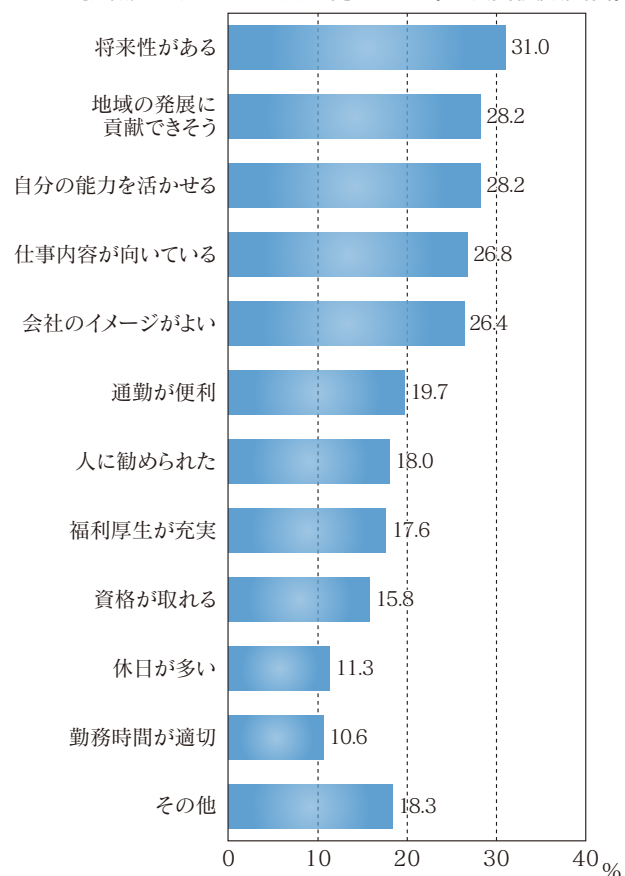
全体では、「将来性がある」(31.0%)が3割を超え、次いで「地域の発展に貢献できそう」と「自分の能力を活かせる」がともに28.2%となった。

「将来性がある」は大学・大学院卒(37.7%)と高校卒(35.6%)、「地域の発展に貢献できそう」は大学・大学院卒(37.7%)、「自分の能力を活かせる」は専門・短大卒(33.3%)で3割を超え、他学歴よりも高い割合となった。

地域別では、「将来性がある」は横手市(46.2%)と湯沢市(41.9%)で、「地域の発展に貢献できそう」は能代市(44.6%)でそれぞれ4割台となったほか、「自分の能力を活かせる」は大仙市で50.0%となり、他地域を上回った。

また、「福利厚生が充実している」(17.6%)は、本項目を設けた1993年度以降最も高くなった。

Q6 就職先を選んだ理由は何ですか(3項目複数回答)



Q6 上位3項目で回答の割合が高い地域

将来性がある	横手市	46.2%
	湯沢市	41.9%
地域の発展に貢献できそう	能代市	44.6%
自分の能力を活かせる	大仙市	50.0%

Q7 インターンシップ経験はありますか

インターンシップ経験がある割合は全体の68.9%となり、前回調査(47.7%)から21.2ポイント上昇した。新型コロナウイルスの影響が和らぎ、インターンシップを実施する企業が増加し経験割合が高まったものと推測される。

最終学歴別の経験割合は、専門・短大卒(78.3%)、高校卒(68.9%)、大学・大学院卒(60.4%)となり、いずれも6割を超えた。

また、インターンシップ経験者199名のうち、インターンシップ先に就職した割合は全体で41.7%と、前回調査(44.7%)から3.0ポイント低下した。最終学歴別では、高校卒(47.3%)で最も割合が高くなり、専門・短大卒(33.3%)と大学・大学院卒(28.1%)を上回った。地域別では、就職した割合の高い順に、大館市(52.0%)、横手市(43.3%)、大仙市(42.9%)となった。

Q7 インターンシップを経験した割合と就職した割合
(単位: %)

	インターンシップの経験がある割合	インターンシップ先に就職した割合
全体	68.9	41.7
高校卒	68.9	47.3
専門・短大卒	78.3	33.3
大学・大学院卒	60.4	28.1
秋田市	55.8	39.6
大館市	67.6	52.0
能代市	69.1	39.5
大仙市	89.7	42.9
横手市	73.2	43.3
湯沢市	74.2	34.8

Q8 現在の勤め先でいつまで働きたいですか

全体では、「定年まで」(38.6%)が最も高い割合となり、「分からない」(31.9%)も3割台となった。また、「条件や状況次第では転職する」(18.6%)と「技能習得や業務経験が十分になれば転職する」(3.9%)を合わせた“転職派”は22.5%となった。

前回調査と比べて、現在の勤め先で定年までの勤続を希望する“定年派”は5.3ポイント、“転職派”は1.2ポイント、それぞれ上回った一方で、「分からない」は3.3ポイント下回った。

高校卒では“定年派”(40.1%)が“転職派”(17.1%)の2倍以上となった。大学・大学院卒では“転職派”(37.7%)が最も高くなったものの、“定年派”(35.8%)と割合は近い。また、「分からない」は、高校卒(37.4%)、専門・短大卒(26.7%)、大学・大学院卒(17.0%)と、学歴が上がるにつれて回答割合が低下した。

2 まとめ

2023年度の新入社員は、「秋田県が好き・安心」という思いから県内での就職を希望し、就職先の決定では定年までの勤続や地域への貢献を視野に入れ企業の将来性を重視したようだ。

コロナ禍での就職活動が3年目となるなか、その影響はやや和らぎ、インターンシップ経験のある割合は前年を大きく上回った。一方で、引き続きWeb/オンラインの利活用がみられ、利用者の多くは学業との両立、費用の節約といった点でのメリットを挙げた。

先行き不透明な状況下でも、県内就職者は就職先に長期的な安定を求めている様子が窺える。インターンシップ事業は「雇用のミスマッチ」防止につながるため、若年層の定着に向け、事業所での取組みがより一層広がることを期待したい。

(相沢 陽子)

Q8 現在の勤め先でいつまで働きたいですか

(単位：%)

	定年まで (定年派)	転職する			将来は 独立希望	いやな事が あったら 辞めたい	結婚・子ども の誕生を機 に退職する	分からない	その他
		(転職派)	条件や状況 次第では 転職する	技能習得や 業務経験が 十分になれば 転職する					
全体	38.6	22.5	18.6	3.9	3.9	2.1	0.4	31.9	0.7
高校卒	40.1	17.1	14.4	2.7	2.7	1.6	0.5	37.4	0.5
専門・短大卒	35.6	26.7	20.0	6.7	6.7	4.4	0.0	26.7	0.0
大学・大学院卒	35.8	37.7	32.1	5.7	5.7	1.9	0.0	17.0	1.9

Q8 “定年派”と“転職派”の推移

